

京都市

- 総人口 1,472,027人 (男性 697,553人 女性 774,474人) (H29年10月1日)
- 高齢化率 27.5% (男性 24.6% 女性 30.1%) (H29年10月1日)
前期高齢化率 13.7% 後期高齢化率 13.8%
- 出生数 10,374人 (男性 5,327人 女性 5,047人) (H29年)
出生率 7.0 (人口千対) 合計特殊出生率 1.27
- 死亡数 14,340人 (男性 7,193人 女性 7,147人) (H29年)
死亡率 9.7 (人口千対)

管内の特徴

京都府の総面積の約18% (827.83 km²)、総人口の約56%を占めている。政令指定都市であり、11行政区で構成されている。地形は、京都府の南部に位置し、東、北、西の三方を山に囲まれ、東に鴨川、西に桂川、南に宇治川、木津川がそれぞれ流れているため、市街化区域は市域面積の約18%となっており、中心部(上京区、中京区、下京区)の人口密度はそれぞれ1万人/km²を超えている(市全体では約1,780人/km²)。

京都市内の産業別の従業員数の割合は、卸売業・小売業が23.0%と最も多く、医療・福祉の13.7%、宿泊業・飲食サービス業の12.4%、製造業の12.3%と続いている。

現 状

【平均寿命と健康寿命】

- ・厚生労働省の厚生労働科学研究「健康寿命のページ」(ホームページ)で公表されている平成28年の本市の健康寿命は、男性71.55歳(政令指定都市21都市中16位)、女性72.82歳(同19位)であった。
- ・男性は平成22年から1.41歳延伸している。女性は平成22年から1.52歳短くなっている。

		平成22年	平成25年	平成28年	比較(28-22)
京都市	男性	70.14歳	70.13歳	71.55歳	+1.41歳
	女性	74.34歳	72.73歳	72.82歳	-1.52歳
京都府	男性	70.40歳	70.21歳	71.85歳	+1.45歳
	女性	73.50歳	73.11歳	73.97歳	+0.47歳
全 国	男性	70.42歳	71.19歳	72.14歳	+1.72歳
	女性	73.62歳	74.21歳	74.79歳	+1.17歳

※厚生労働科学研究「健康寿命のページ」(ホームページ)より

- ・本市の平成22年と平成28年の平均寿命と健康寿命の差を比較すると、男性では変化はない一方で、女性は2.2歳広がっている。

＜本市における平均寿命と健康寿命の比較＞

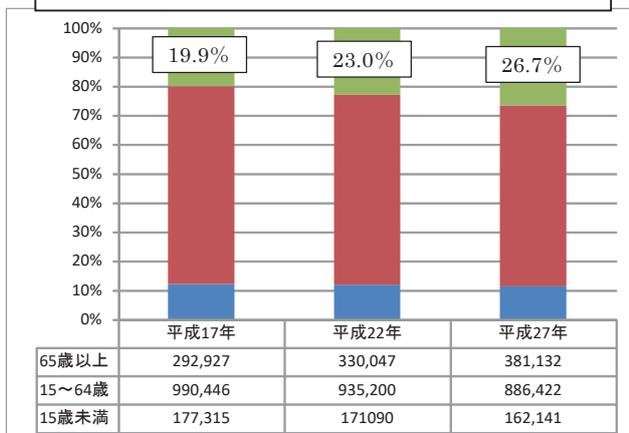
		平均寿命 (①)	健康寿命※2 (②)	①と②の差 (③)	③の比較 (28-22)
平成22年	男性	80.0歳	70.1歳	9.9歳	—
	女性	86.7歳	74.3歳	12.4歳	—
平成28年 ※1	男性	81.5歳	71.6歳	9.9歳	0歳
	女性	87.4歳	72.8歳	14.6歳	+2.2歳

※1 平均寿命は、平成27年の数値。

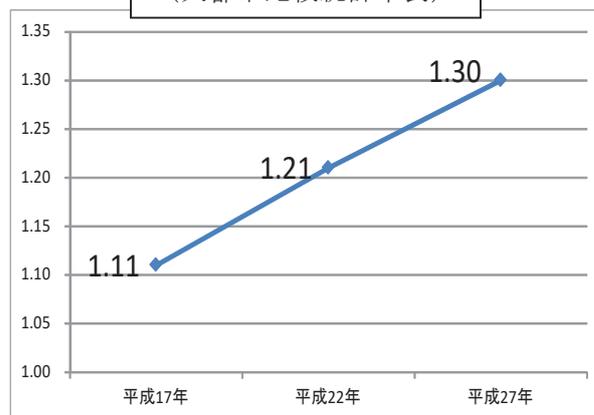
※2 平均寿命が小数点第一までしか示されていないことから、健康寿命を四捨五入したうえで、差を算出。

【人口動態統計】

3 区分人口比及び高齢化率の推移 (国勢調査)



合計特殊出生率の推移 (大都市比較統計年表)



- 65 歳以上の人口や高齢化率はともに増加し、大正 9 年以降で最大となっており、これは第 1 次ベビーブーム期に生まれた「団塊の世代」が既に 65 歳に達し、その後も高齢者人口が増加し続けていることを反映したものと推測される。
- 合計特殊出生率は、平成 17 年の最も低い 1.11 から増加し、平成 27 年には、平成 6 年以降 21 年ぶりに 1.3 台となったが、全国平均よりも低い。
- 出産適齢人口と出生数は減少傾向が続いている。母の出生年齢階級別にみると、20 歳代が横ばいなのに対し、30 歳代は増加傾向にある。
- 行政区別の出生率では、南区、西京区などで高い傾向がある。

※京都市統計ポータルサイト「京都市の高齢人口」「京都市の合計特殊出生率」より

【死亡統計】

- 平成 20 年～平成 24 年の本市標準化死亡比 (SMR) では、男女ともに悪性新生物、心疾患が高く、脳血管疾患は低い傾向が見られる。悪性新生物では、男女の大腸がん、肝及び肝内胆管、気管・気管支及び肺がん、女性の胃がんが高い。

	悪性新生物									
	総数		胃		大腸		肝及び肝内胆管		気管、気管支及び肺	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
京都府	99.8	105.1	99.4	102.3	99.5	107.2	101.9	108.1	107.1	118.9
京都市	102.0	109.5	99.6	102.5	105.6	112.9	110.6	112.3	106.7	130.8

	心疾患		脳血管疾患		肝疾患		腎不全	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
京都府	104.1	106.4	83.2	86.7	80.2	88.4	103.5	110.7
京都市	106.3	106.0	82.7	85.2	85.6	93.7	98.7	106.3

※厚生労働省人口動態統計特殊報告 (平成 20 年～平成 24 年) より

- 本市の平成 18 年～27 年の主要死因別死亡率の年次推移では、悪性新生物 (285.7)、心疾患 (157.9)、肺炎 (79.6) が増加傾向にある。※ () 内は平成 27 年人口 10 万対死亡率
- 平成 27 年の本市死因別死亡者の割合では、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の 3 大生活習慣病による死亡が全体の半数以上の 55.5% を占め、全国 (53.8%) とほぼ同様である。

※平成 28 年京都市衛生年報より

【医療費統計】

- ・ 京都市国民健康保険の1人あたり医療費は357,204円で全国平均と比べて1.2%上回っている。その内、前期高齢者では565,929円で、全国平均を11.1%上回っている。
- ・ 政令指定都市20市の比較では、1人あたり費用額(281,624円)は8番目、人口10万人あたり病院数(7.0箇所)は8番目、同病床数(1,562.2床)は4番目である。
- ・ 平成28年度医科分の疾患別の医療費の内訳では、生活習慣と関連が深い「循環器系の疾患」が最も高くなっている。医療費全体における生活習慣病(がんを除く)の医療費は29%、がんが16%を占めている。
- ・ 平成28年度診療分における高額医療費について、外来1件あたり30万円以上のレセプトでは腎不全が最も多く、年間医療費は約33億円であり、次いで、がんが約22億円である。
- ・ 平成29年5月現在の透析患者数は931人、うち新規透析患者数は164人である。新規透析患者のうち、5割以上が糖尿病、9割が高血圧を併発している。
- ・ 平成28年度特定健診結果の分析では、高血圧未治療者のうち、24%がⅡ度以上(160以上/100以上mmHg)に相当する。また糖尿病未治療者では、22%がHbA1c 7.4%以上に相当する。

※平成30年度京都市国民健康保険事業運営計画より

【介護保険事業統計】

- ・ 本市第1号被保険者数が、391,211人(平成29年10月)、要支援・要介護認定者数が、86,455人(平成29年10月)となっており、第1号被保険者数に占める要支援・要介護認定者数の割合である認定率は、平成29年10月現在で、21.73%(平成28年3月末 全国平均17.9%(「介護保険事業状況報告」から))となっている。
- ・ 本市認定率は、年齢が高くなるほど(特に75歳以降)、行政区別ではひとり暮らし高齢者の割合が高いほど高くなる傾向がある。
- ・ 平成28年国民生活基礎調査における全国の介護が必要になった主な原因を見ると、要支援では、「関節疾患」、「高齢による衰弱」、要介護では、「認知症」、「脳血管疾患」が上位である。
- ・ 本市の認知症高齢者数は、認知症有病率に基づく算出では、64,000人と推計され、2025年には93,000人と推計される。

※第7期京都市民すこやかプランより

【がん検診事業統計】

- ・ がん検診の受診率は、3年に1度実施されている国民生活基礎調査(大規模調査)の結果から算出されており、本市が実施するがん検診の受診者だけでなく、職場におけるがん検診や人間ドック等の受診者も含まれている。

種類		22年調査	25年調査	28年調査	目標値
胃がん検診	京都市	28.9%	34.7%	32.8%	50% (第3期がん対策推進基本計画、平成29~34年度)
	全国平均	32.3%	39.6%	40.9%	
肺がん検診	京都市	19.6%	35.5%	37.7%	
	全国平均	24.7%	42.3%	46.2%	
大腸がん検診	京都市	23.0%	32.4%	32.1%	
	全国平均	26.0%	37.9%	41.4%	
子宮頸がん検診	京都市	32.7%	37.4%	36.5%	
	全国平均	37.7%	42.1%	42.4%	
乳がん検診	京都市	36.1%	39.1%	37.2%	
	全国平均	39.1%	43.4%	44.9%	

直近である平成28年度の本市の受診率は、いずれも30%台にとどまっており、目標値及び全国平均値を下回っている。

【特定健診・特定保健指導事業統計】

- ・ 平成 28 年度の全国の市町村国保における特定健康診査受診率は、36.6%（男性 32.7%、女性 40.1%）である。
- ・ 平成 28 年度の京都市国保の特定健診受診率は、25.6%（男性 23.3% 女性 27.5%）で全国平均よりも低い。特定保健指導実施率は 19.2% である。
- ・ 肥満者（BMI25 以上）の割合は、男性 25.9%、女性 15.3% である。男性では特に 40 歳代、50 歳代に多く約 3 割が肥満者である。
- ・ メタボリックシンドローム該当者は、男性 27.3%（全国 28.0%）、女性 8.0%（全国 9.7%）であり、男性では全国とほぼ同様、女性では全国よりも少ない。男性では 50 歳以降にその割合が増加している。メタボリックシンドローム予備軍は男性 15.6%（全国 17.2%）、女性 4.7%（全国 5.8%）である。
- ・ 1 合以上飲酒する者の割合は、男性 43.4%、女性 12.1% である。男女ともに 40 歳代、50 歳代で割合が多くなっている。
- ・ 喫煙している者の割合は、男性 22.9%、女性 7.0% である。男女ともに 40 歳代、50 歳代で割合が多くなっている。

※平成 28 年度特定健診・特定保健指導結果より

【保健事業】

- 1 保健福祉センターによる地域における健康づくり事業（アウトリーチ型）
 - ・ 各区・支所の保健福祉センターが、市民の健康に関するデータ（特定健診の実施結果等）を分析し、地域課題を把握のうえ、課題や市民ニーズに応じた健康づくり事業を市民に身近な地域で実施する（平成 29 年度全市での実施件数 1,538 回）。
 - ・ 市民に身近な地域で事業を実施することにより、より多くの市民に積極的に働きかけ、市民主体の継続した取組へとつなげる。（健康づくりの取組へのきっかけづくり）
- 2 食育の普及促進
 - ・ ふれあいファミリー食セミナー（マタニティクッキング、わんぱくクッキング、離乳食講習会）の実施
 - ・ 大学生を対象とした望ましい食生活習慣の普及・啓発
 - ・ 各区・支所の保健福祉センターにおける食育セミナー「京・食クッキング」の実施
 - ・ 食の健康づくりガイドブック・食育レシピ・「京（みやこ）・食育だより」等による食育の普及・啓発
 - ・ 「京・食ねっと」（ホームページ）における食の総合的な情報発信
- 3 栄養改善事業
 - ・ 特定給食施設等への指導・支援（全市講習会、個別巡回指導、行政区毎の連絡会等）
 - ・ 食品表示に関する相談・指導
 - ・ 健康に配慮した食事を提供する飲食店等を登録し、広く市民へ普及啓発することで、食を通じた市民の健康づくりを推進する「食の健康づくり応援店」事業の実施
 - ・ 市内大学等と学生食堂運営事業者との連携による、学生が積極的に野菜摂取できる環境づくりを支援
- 4 歯科口腔保健の推進
 - ・ 各区・支所の保健福祉センターにおける歯科健診・歯科相談等の実施
 - ・ フッ化物歯面塗布やフッ化物洗口などのフッ化物応用によるむし歯予防の推進
 - ・ 歯周疾患予防健診や歯周病予防手帳「歯ッピーNote」等による歯周病予防の推進
 - ・ 京都市「お口の体操」の普及や後期高齢者歯科健康診査等による口腔機能の低下予防やオーラルフレイル対策の推進
 - ・ 要介護高齢者や障害者等の施設の職員等に対する口腔ケア等の普及啓発

5 介護予防事業

- 平成 18 年 6 月から地域における介護予防（地域介護予防推進事業）の拠点として地域介護予防推進センターを設置（伏見区を除く各区 1 か所、伏見区のみ 2 か所、合計 12 か所）し、社会福祉法人、医療法人等にその運営を委託し、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業及び地域リハビリテーション活動支援事業に係る事業を実施、展開
- 地域介護予防推進センターでは、運動、栄養、口腔の各分野の専門職と連携し、「運動器の機能向上」、「栄養改善」及び「口腔機能の向上」に関する介護予防プログラム（介護予防教室）の提供や講演会、フレイル・オーラルフレイル対策等を実施

6 生活習慣病一次予防事業（京都市国民健康保険保健事業）

- 運動ひろば 京からだ！（運動指導を主とした生活習慣病一次予防のための教室）
- 減塩クッキング教室（主に高血圧症の一次予防のための調理実習）
- 短時間の禁煙支援（集団健診・人間ドックの健診会場での短時間の禁煙支援）

【ソーシャルキャピタル】

1 健康長寿のまち・京都市民会議

平成 28 年 5 月に発足し、平成 29 年度末現在 104 もの幅広い市民団体、関係機関等が参画しており、これまでに「健康長寿のまち・京都」の実現に向けたキャッチコピーやロゴマークの決定、ポータルサイトの立ち上げ、いきいきポイントの実施、アプリ開発など様々な取組を、京都市と連携して推進している。

2 保健協議会

地域住民の健康の保持・増進及び地域の環境保全と環境整備に寄与することを目的として、昭和 28 年に設立された本市独自の任意団体

- 各学区保健協議会 224 団体、保健委員 7,064 人

3 健康づくりサポーター

地域において健康づくりに関する知識や技術の普及啓発を実践し、健康づくりの担い手として活動

- 平成 29 年度末 登録者 414 人、活動回数 1,109 回、サポーター参加人数のべ 10,815 人、市民参加人数のべ 48,563 人

4 いきいき筋トレ普及推進ボランティア

「京から始めるいきいき筋力トレーニング」「京ロコステップ+10」（健康増進のための運動プログラム）及び介護予防に関する知識の普及啓発を地域において実践するボランティア

- 平成 29 年度末 登録者 467 人、活動回数 6,391 回、市民参加人数のべ 139,269 人

5 食育指導員

保健福祉センターや小学校、保育所等地域において、料理教室等の体験活動や食を通じた健康づくり等の普及啓発活動を行うボランティア

- 平成 29 年度末 認定者 352 人、登録者 258 人、活動回数 1,854 回

6 地域支え合い活動創出コーディネーター

高齢者が住み慣れた地域での暮らしを継続できるよう必要な生活支援サービスの創出やサービスの担い手の養成、関係者のネットワーク構築を行うコーディネーター（平成 29 年度末 各区に 1 名ずつ配置）

- 平成 29 年度末 サービス創出のための調整会議開催回数 140 回

健康寿命に影響を及ぼす改善すべき健康課題

<生活習慣>

全国平均に比べて 20 歳代で朝食欠食が多い，運動不足が多い，野菜摂取量が少ない，女性の喫煙率が全国平均より高い

<体格>

若年女性のやせ，壮年男性の肥満，高齢女性の低栄養傾向

<健診・検診>

特定健診・がん検診・歯科健診の受診率が全国平均より低い

健康寿命延伸のため平成 29 年度に実施した 内容と取り組みの方向性

【取り組みの方向性】

京都ならではの地域力・文化力の強みを活かした健康づくりを市民ぐるみで推進し，健康寿命を延伸し，平均寿命へ近づけ，誰もが幾つになっても笑顔でいきいきと健やかに過ごせる「健康長寿のまち・京都」の実現に向け，取組を進めている。

【重点事業】

1 健康長寿のまち・京都いきいきポイントの実施

健康づくりに関心のある方だけではなく，関心がない方にも行動変容を促し，自主的に健康づくりに取り組んでいただくとともに，習慣化につなげていく取組として，平成 28 年度から実施している「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」を引き続き実施し，平成 29 年度は全 3 回のプレゼント応募件数の合計は 3,647 件であり，平成 28 年度の 2,958 件からは約 2 割増加した。

2 健康長寿のまち・京都いきいきアプリの開発，運用開始 新規

スマートフォンを用いて，市民が楽しみながら，より一層主体的に健康づくりの取組を継続できる環境を構築することとして開発を進め，平成 30 年 1 月から「健康長寿のまち・京都いきいきアプリ」の運用を開始した。

3 保健福祉センターによる地域における健康づくり事業（アウトリーチ型） 新規

各区・支所の保健福祉センターが，市民の健康に関するデータ（特定健診の実施結果等）を分析し，地域課題を把握のうえ，課題や市民ニーズに応じた健康づくり事業を市民に身近な地域で実施する（平成 29 年度全市での実施件数 1,538 回）。

【次年度以降の方向性】

引き続き「健康長寿のまち・京都」の実現に向け，取組を進めていく。

- 1 健康づくり推進者表彰制度「健康長寿のまち・京都いきいきアワード」 新規
- 2 健康長寿のまち・京都いきいきポイント（平成 28 年度～）
- 3 健康長寿のまち・京都いきいきアプリ（平成 30 年 1 月～運用開始）
- 4 地域における健康づくりの取組の推進（平成 29 年度～）
- 5 京都市後期高齢者歯科健康診査「75 歳お口の健診」及び「京都市お口の体操」 新規